

医療の社会連携・実装科学

科目責任者 小 橋 元
学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて、医学生に求めたいことの中に次の記述がある。「今日の医師に求められる役割の一つとして、予防医療がある。すなわち、医療全体を考えるにあたっては、病気の診断や治療だけではなく病気の背景を考え、また健康の社会的決定要因、スポーツ・運動や栄養・食育の重要性についても認識することが必要である。また、幅広い視野を持つという観点では、患者一人一人がそれぞれに社会生活を営んでおり、在宅医療を含め医療現場で目にするのは患者の生活の一場面に過ぎないということを認識することも重要である。」

本講義では、予防医療に欠かせない保健・医療・福祉のプログラムについて医療の社会連携という視点から学び、かつ、これらプログラムを開発し全国に届け根付かせることが如何に難しいか、そして、これらプログラムを届けるための戦略として近年登場した実装科学について、講義や演習を通して学ぶ機会にしてほしい。

II. 担当教員

教 授	小 橋 元	(公衆衛生学)
教 授	春 山 康 夫	(研究連携・支援センター)
准 教 授	内 山 浩 志	(公衆衛生学)
講 師	高 岡 宣 子	(公衆衛生学)
助 教	阿 部 美 子	(公衆衛生学)
外部講師	高 安 健 一	(獨協大学 経済学部)
外部講師	岩 佐 景一郎	(栃木県保健福祉部)
外部講師	亀 田 義 人	(順天堂大学)
外部講師	小 菅 一 弥	(壬生町 町長)

III. 一般学習目標

社会を見つめ、社会と連携しながら人々の生活をまもるプロフェッショナルとしての医師の在り方、姿勢を学び、多様な場や人をつなぎ活躍できる医師像を知る。

IV. 学修の到達目標

- 1) 健康の社会的決定要因を学ぶ。
- 2) WHOが提唱するヘルス・プロモーションについて知る。
- 3) 医療における特許や産学連携について学ぶ。
- 4) 院内クリニカルパスや地域連携クリニカルパスについて学ぶ。
- 5) 医療連携と経営について学ぶ。
- 6) 社会実装の考え方について深く考える。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	24	水	1	壬生町における保健・医療・福祉の現状と未来	小 菅 一 弥	1
2		24	水	2	病院マネジメントと地域連携	亀 田 義 人	1
3		24	水	3	社会実装の考え方	高 安 健 一	1
4-6		24	水	4-6	社会実装演習	高安, 内山, 春山, 高岡, 阿部, 小橋	3
7-9	5	2	木	1-3	社会実装演習 発表会	内山, 春山, 高岡, 阿部, 小橋	2,5
10		2	木	4	健康の社会実装概論	小 橋 元	1
11		2	木	5	地域保健福祉・地域医療連携	岩 佐 景一郎	1
12		2	木	6	社会実装まとめ	内 山 浩 志	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

原則として、定期試験（80%）、講義中の小テスト・レポート、出席状況等（20%）によって総合評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

随時、講義の中で紹介する

VIII. 質問への対応方法

- ①原則的には、講義の中あるいは終了直後に対応する。
- ②科目担当者である公衆衛生学講座（内線番号2269, pubhealth@dokkyomed.ac.jp）が窓口になり、講義担当者に連絡する。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の内容については非公開。レポートのフィードバックは課題による。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。